

近現代史(31) 世界分割と列強対立①「アフリカの植民地化」

○今回のポイント

ベルリン＝コンゴ会議を契機として、実効支配の原則が確立されると、列強諸国はアフリカ分割に乗り出した。

(1)ベルリン＝コンゴ会議

■ヨーロッパ・アフリカ関係

○19世紀前半…ヨーロッパ人のアフリカに関する知識は沿岸部にのみ限られる。

※北部やインド航路の港など

○19世紀半ば…[1. リヴィングストン]、スタンリーの探検 ⇒列強はアフリカに関心を示す

○1880年初め…[2. コンゴ]地域をめぐるヨーロッパ諸国の対立

・1884～85年[3. ベルリン会議](1878年サン＝ステファノ条約を破棄したベルリン会議と混同注意)

□a)ベルギー国王の所有地として[4. コンゴ自由国]の設立を認める。

□b)アフリカ植民地の原則を定める。

ある地域を植民地にするためには、その地域でのヨーロッパ人の安全や商業活動を保障できなければならない[5. 実効支配]という原則。そのためには、植民地の境界を確定し、現地に行行政・治安機構をつくる必要があるとされた。

(2)イギリスのアフリカ分割

A エジプト経営

・1875：[6. スエズ運河]の株式買収 ⇒ 実権掌握

・1881～82 [7. ウラービーの乱]⇒ 鎮圧・占領・事実上の保護国化 ⇒1914年正式に保護国化

・1881～98 [8. マフディーの乱]⇒ 自らマフディー(救世主)と称する[9. ムハンマド＝アフマド]に率いられたスーダンのイスラーム教徒による反英抵抗戦争。[10. ゴードン] (クリミア戦争やアロー戦争、太平天国の乱鎮圧に活躍した)が戦死。89年に征服

B 南アフリカ経営

・ケープ植民相[11. セシル＝ローズ]の侵攻政策

・1899～1902 [12. ボーア戦争](南ア戦争・ブール戦争)

□ボーア人(ブール人)はケープ地域のオランダ系子孫。ケープ地域が英領となって以来北に移住し、トランスヴァール共和国とオレンジ自由国を建てた。金とダイヤモンドが発見されたため、セシル＝ローズの帝国主義侵略戦争を受けた。1906年イギリスがボーア人に先住民への優越権を与えたことが[13. アパルトヘイト]の先駆けとなった。

C アフリカ縦断政策

・エジプトの[14. カイロ]と南アフリカのケープタウンを結ぶ政策。インドの[15. カルカッタ]とあわせて3C政策とした。アフリカ縦断政策ではフランスの横断政策と対立し、3C政策ではドイツの3B政策と対立することになった。

(3) フランスのアフリカ分割

A アフリカ横断政策

・1830年[16. アルジェリア]占領⇒1881年[17. チュニジア]占領⇒サハラを横断して[18. ジブチ](地図確認)、マダガスカルと結合しようとする。

B 英仏の妥協

・1898年[19. ファショダ事件]で英仏衝突⇒英仏、ドイツ強大化を警戒して妥協⇒1904年[20. 英仏協商]…エジプトにおけるイギリスの支配的地位と、モロッコにおけるフランスの支配的地位を認め合い、ドイツに対抗。

(4) ドイツのアフリカ分割

■1880年代 ⇒[21. カメルーン]・南西アフリカ・東アフリカなど獲得

↓

■経済的価値に乏しい

↓

■20世紀 ⇒ 新たな植民地獲得を目指して、2度の[22. モロッコ事件]を起こす。

・1905 第一次モロッコ事件：フランスのモロッコ進出に抗議。ヴィルヘルム 2 世がモロッコの[23. タンジール]に上陸し、列国会議を要求。1906年の[24. アルヘシラス会議]でドイツの要求は却下。

・1911 第二次モロッコ事件：ドイツが砲艦を[25. アカディール]に派遣してフランスを牽制。ドイツは仏領コンゴの一部が与えられるにとどまった。モロッコは1912年フランスの保護国となった。

(5) イタリアのアフリカ分割

A) 東アフリカ進出…[26. エリトリア]、ソマリランド獲得

B) [27. アドワの戦い]…[28. エチオピア]に侵略戦争をしかけるも敗退。フランスから武器貸与を受けたメネリク 2 世がゲリラ戦で完勝した。イタリアは無力を露呈したと言われる。

C) [29. 伊土戦争](1911～1912)…列強の関心が第二次モロッコ事件に向いている中、オスマン帝国から[30. トリポリ・キレナイカ](現リビア)を奪う。

(6) アフリカ分割の結果

① 20世紀初頭の独立国

A) [31. エチオピア帝国]…名君メネリク 2 世のもとで対仏援助を引きだし、イタリア軍の侵攻を撃退。列強対立を利用して、巧みに独立を守った。しかし、1935年のイタリア[32. ムッソリーニ]政権時に侵攻を受け、翌36年併合された。

B) [33. リベリア共和国]…1822年以降アメリカ植民地協会の援助で入植した黒人解放奴隷が1847年に独立を宣言した共和国。国名リベリアはliberty(自由)からきている。

② 人為的な国境

○原料や資源の獲得、商品市場などの経済的利害・戦略基地設置

↓

○[34. 人為的国境]を定め、原住民のつながりや交易網を破壊

↓

○その後の住民の自立や独立に大きな障害となる。